

2021 年度  
オンライン実践セミナー 中上級コース

## さまざまな視点から支援を考える



オンデマンド配信期間1回目:2021年11月2日(火)~15日(月)  
オンデマンド配信期間2回目:2022年2月1日(火)~14日(月)

※本資料内の文字、画像の転載を禁じます。

主催:公益社団法人 日本発達障害連盟

# 講義内容

## 講義 1

「支援チームを育てる」(2 時間 30 分)

講師: 玉井 邦夫 氏

## 講義 2

「それぞれの施設に応じた連携のあり方を見つける」(2 時間 30 分)

講師: 酒井 康年 氏 (うめだあけぼの学園 副園長)

# 支援チームを育てる

---

玉井 邦夫

大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授  
公益財団法人 日本ダウン症協会 代表理事  
公益社団法人 日本発達障害連盟 理事

玉井 邦夫 (たまい くにお)

---

教育学修士、臨床心理士（臨床発達心理士、家族心理）

## 【 略 歴 】

千葉県出身

東北大学大学院修了後、情緒障害短期治療施設にセラピストとして勤務。その後、山梨大学教育人間科学部に着任し、現在は大正大学人間学部臨床心理学科教授、公益財団法人日本ダウン症協会代表理事。公益社団法人日本発達障害連盟理事。日本子どもの虐待防止学会評議員。全国心身障害児福祉連盟評議員。

## 【 著 書 】

- ・『瞬間をかさねて 「障害児」 のいる暮らし』ひとなる書房 1994
  - ・『<子どもの虐待>を考える』講談社現代新書 2001
  - ・『学校現場で役立つ子ども虐待対応の手引き 子どもと親への対応から専門機関との連携まで』明石書店 2007
  - ・『ふしぎだね!?ダウン症のおともだち 発達と障害を考える本』ミネルヴァ書房 2007
  - ・『特別支援教育のプロとして子ども虐待を学ぶ』学習研究社 2009
  - ・『発達障害の子どもたちと保育現場の集団づくり 事例とロールプレイを通して』かもがわ出版 2009
  - ・『ダウン症のこどもたちを正しく見守りながらサポートしよう!』日東書院本社 2012
  - ・『本当はあまり知られていないダウン症のはなし』LD 協会・知識の森シリーズ 2015
  - ・『エピソードで学ぶ 子どもの発達と保護者支援』明石書店 2018
- 他

## (共著)

- ・『発達障害白書 2020 年版、2019 年版、2018 年版、2015 年版、2014 年版、2013 年版、2011 年版、2010 年版』明石書店
  - ・『公認心理師現任者講習会テキスト 2018 年版』 金剛出版
  - ・『教育の最新事情がよくわかる本 3』 教育開発研究所 2016
  - ・『心理臨床講義』 金剛出版 2015
- 他

公益社団法人日本発達障害連盟主催  
令和2年度 支援者を伸ばすオンライン実践セミナー【中上級】

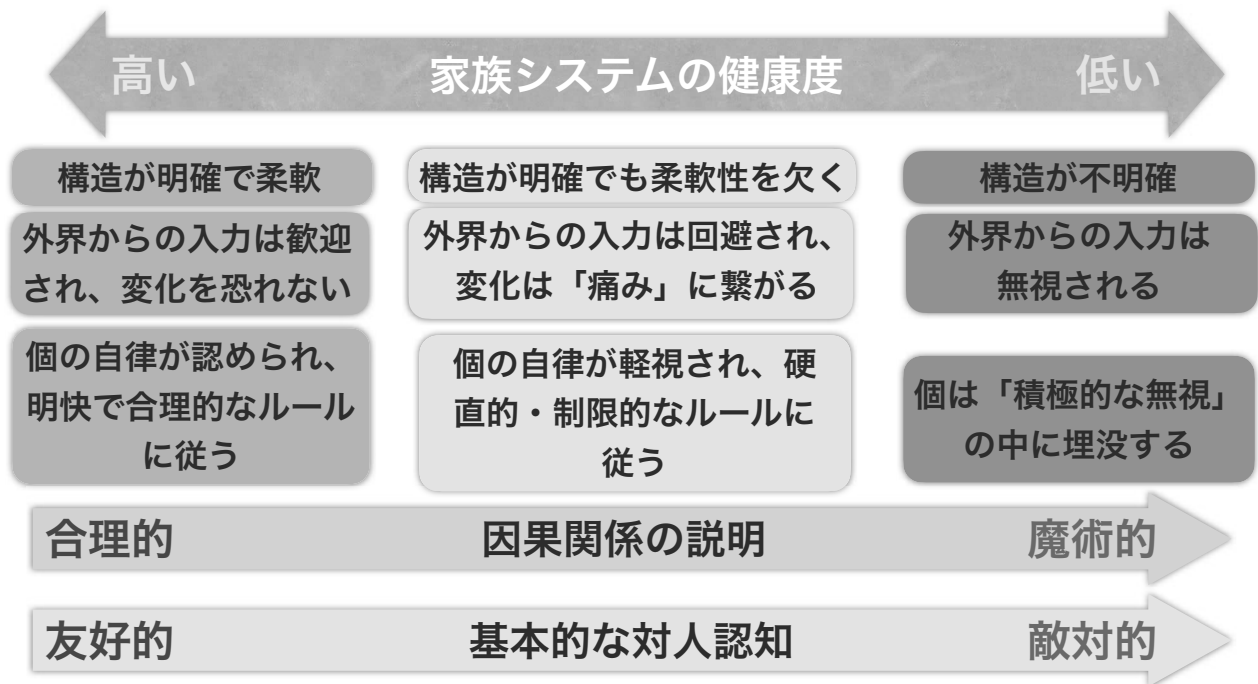


# 支援チームを育てる

2021.1.15～30  
玉井邦夫（大正大学）

1

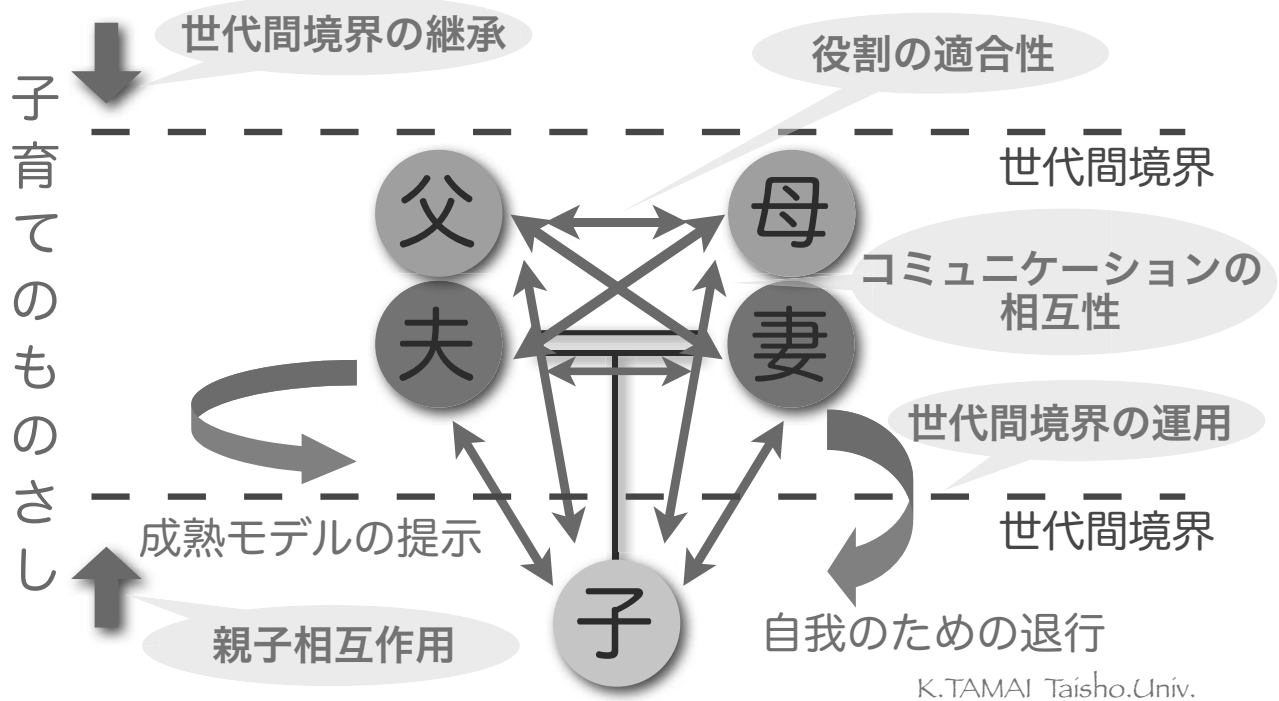
# 家族システムの健康度



K.TAMAI Taisho.Univ.

# 家族システム

～支援において、何を「操作」しているのか～



# 家族システムを見立てる

## ● 両親連合を見立てる

- 双方の「実家」との関係性（お互いの「育ち」の尊重）
- 両親間のさまざまな「較差」

## ● 家族の歴史を見立てる

- その子は、親のどんな人生局面に登場したのか
- 親の中にどんな「親モデル」が形成されてきたのか

## ● 家族の資源を見立てる

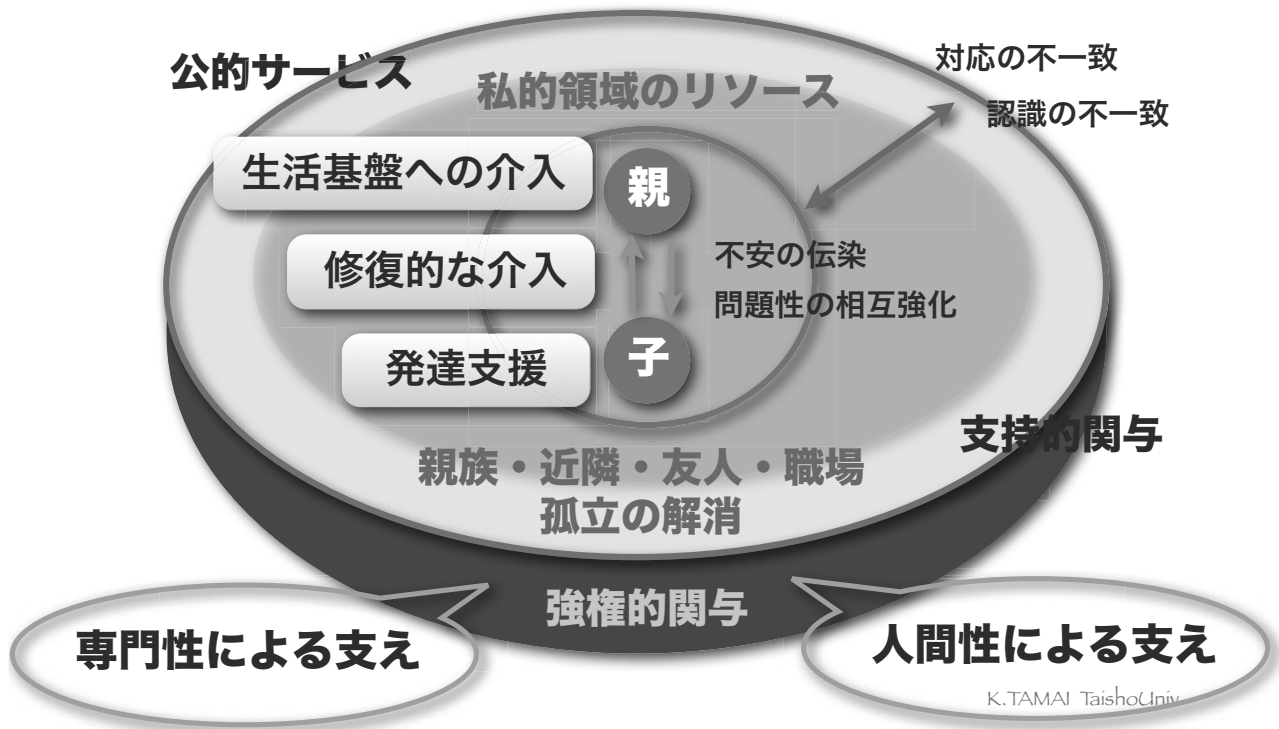
- 家族外ネットワーク（親族・近隣・友人・職場）

K.TAMAI Taisho.Univ.

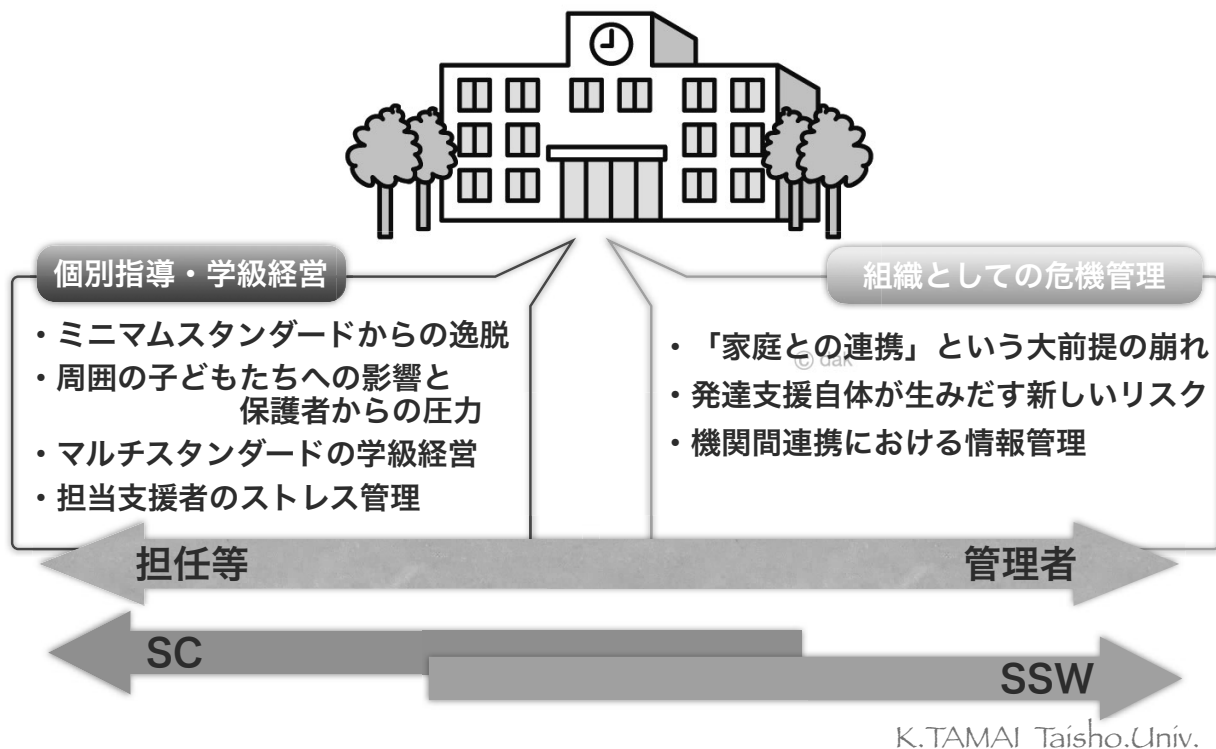


# チームによるサポート

生活のテリトリー

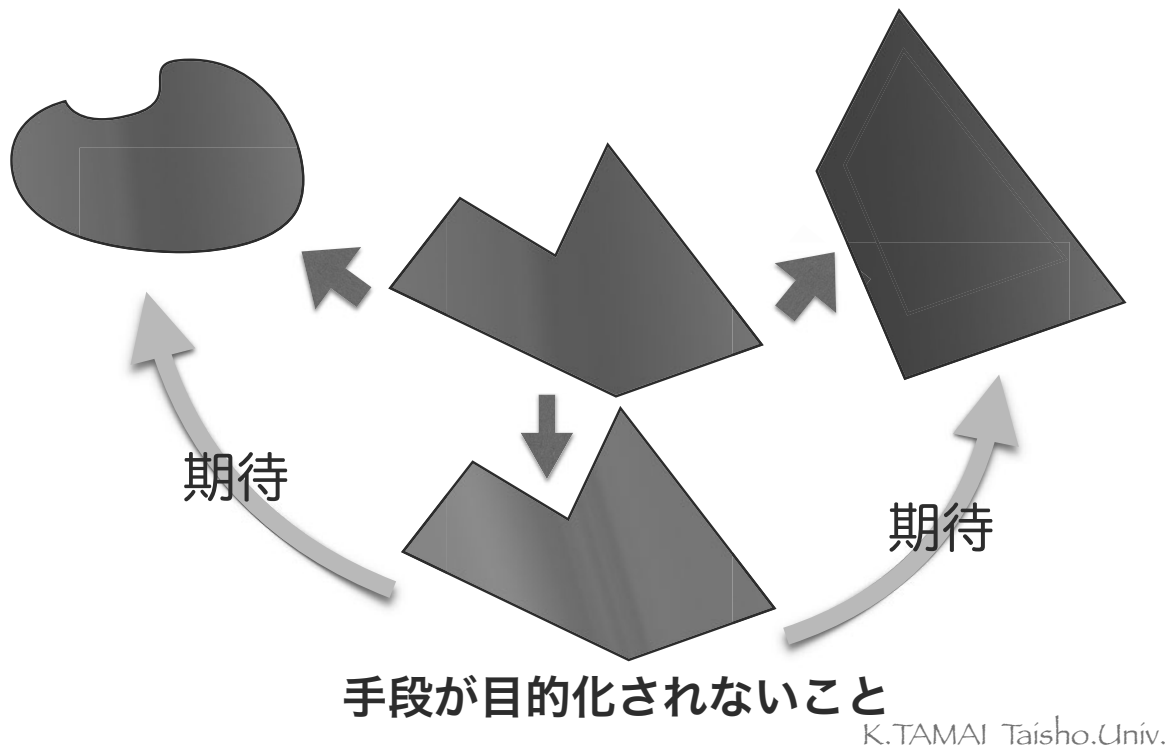


# 学校園を取り込んだ支援



# 教育・福祉・医療

～「正しさ」の衝突～



# ケース会議の留意点

- 操作的定義の徹底（目標の設定）
- 行動の「差」が考察の主眼
- 誰が、何を、いつまでに、どうやって、の確認  
（次の会議の開催時機が必然的に決まる流れかどうか  
チェックポイント）
- チームの中でどの部分（人）がいちばん「弱っている」  
「困っている」のかを共有する
- 会議の決定は必ず全員で確認する
- 自分の機関にできることとできないことを明確にする
- 機関間連携の実を決定するのは機関内連携の成否
- 機関間連携では、三者以上の協議の場が大切
- みんな自分の「枠」がある。目指すのは「一致」ではなく  
「共有」

K.TAMAI Taisho.Univ.

# 子どもの状態像の見立て

～学習のセットの判断～

## ● 授業内容の理解以前の課題として、学習のセットが形成されているかどうかを判断する（観察）

- 注意：適切な刺激に定位できるか／不要な刺激を無視できるか
- 集中：姿勢の変化、仕草の変化、立ち直りに必要な指示
- 基本的な目の使い方：板書などの書き写し／視覚的な探索
- 作業速度
- 情緒の安定と意欲の持続／もしくはその立ち直り
- 観察されている状況は「普段」とどの程度異なっているか

## ● 観察以外の情報

- 一日／一週間／二週間のリズム
- 場面／状況（行事時等）／対人環境による差

K.TAMAI Taisho.Univ.

# 子どもの状態像の見立て

～認知能力面の判断～

- 言語刺激の理解：音読／筆写等での文節化、支援者の発言への反応／テストなどでの誤答の分析／語彙
- 空間認識：空間の使い方／視覚的探索／視覚的な記憶
- 記憶：短期記憶／長期記憶／展望記憶
- 推理：会話等からの判断、誤答からの判断（見落とし／勝手な付け加え／前提の取り違え）
- 各種のアセスメントの結果、活動内容や集団形態等による差があるか、保護者や同胞の状況（認知面）、等と合わせて検討する

K.TAMAI Taisho.Univ.

# 子どもの状態像の見立て

～その他の判断～

- 情緒的な成熟度：年齢標準と比べてどうか → 情緒的な未成熟が強ければ、その子にとってごく当たり前の反応であっても集団内では不適応的になる
- ソーシャルスキルの程度
  - 挨拶する／誘う／楽しむ／喜ぶ、という側面
  - 断る／抗議する／反対する／避ける、という側面
- 興味・関心の偏り
- 対人的な巻き込まれ／回避の状態
- 現状はアンダーアチーバーかオーバーアチーバーか

K.TAMAI Taisho.Univ.

# SVにあたって

- その支援者の刺激価を理解してもらう
- 支援にあたっての感情の揺れを理解してもらう
- わかっていない情報に関して
  - それがわかるとどんな判断が可能になるかを伝える
- 活用可能な外部資源とその意義
- 短期／中期／長期のリスクを伝えること
- 絶対に恥をかかせないこと
  - 「Yes, but」と「No, but」の使い分け
  - 「支援者が見聞きしたもの」を聴いてから判断を伝える
  - 「私ならこうしてみます」と

K.TAMAI Taisho.Univ.



# それぞれの施設に応じた 連携のあり方を見つける

---

酒井 康年

うめだ・あけぼの学園 副園長  
作業療法士

# 酒井 康年（さかい やすとし）

作業療法士、感覚統合療法認定セラピスト、感覚統合療法認定講習会インストラクター

---

## 【略歴】

東京都出身

知的障害の特別支援学校教諭を5年間務めた後、作業療法士の資格取得。現在は、『うめだ・あけぼの学園』に勤務し、幼稚園・保育園・小学校等の巡回相談、講演会の講師等を担当。障害の有無や年齢にかかわらず、子どもたちが持っている可能性を形にすることを大切に、地域の子どもの支援、保護者支援を実践している。うめだ・あけぼの学園副園長。日本作業療法士協会理事。一般社団法人 全国児童発達支援協議会 事務局長。

## 【著書】

・『発達が気になる子どもを地域で支援! 保育・学校生活の作業療法サポートガイド』

メジカルビュー社 2016

(共著)

・『地域で働く作業療法士に役立つ発達分野のコンサルテーションスキル』三輪書店 2018

・『子どもの能力から考える 発達障害領域の作業療法アプローチ』メジカルビュー社 2013

・『子どもの能力から考える 発達障害領域の作業療法アプローチ 改訂第2版』

メジカルビュー社 2018

・『臨床作業療法 [雑誌] (飛び出せ OT! 子ども支援の虎の巻)』 青海社 2016.12月号

支援者を伸ばす実践オンラインセミナー  
中上級コース  
さまざまな視点から支援を考える

# それぞれの施設に応じた 連携のあり方を見つける

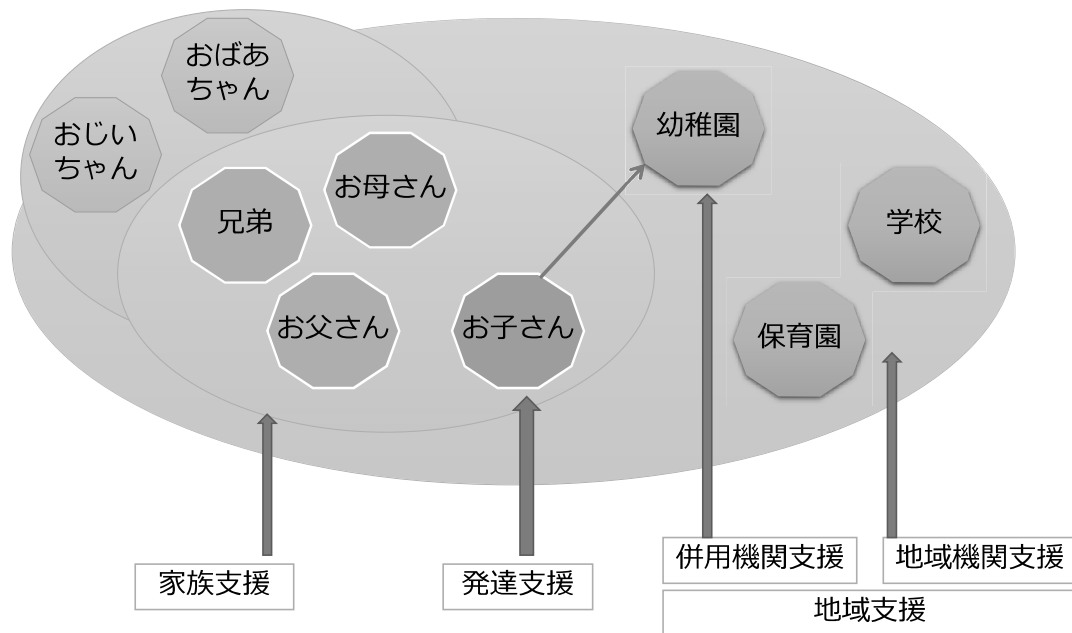
2021年1月  
児童発達支援センター  
うめだ・あけぼの学園 副園長  
作業療法士 酒井康年

## 自己紹介を兼ねて ～うめだ・あけぼの学園について

- 東京都足立区にある児童発達支援センター
- 1977年2月に設立
- 0歳児から小学校3年生までの約300名の発達障害のあるお子さんと、そのリスク児が通園
- その他、保健所、児童相談所、医療機関、保育園、幼稚園、関連支援機関などから紹介され、診断・評価・相談に来園
- モンテッソーリ法
- 0歳からの発達支援と家族支援
- 様々な職種によるチームアプローチ



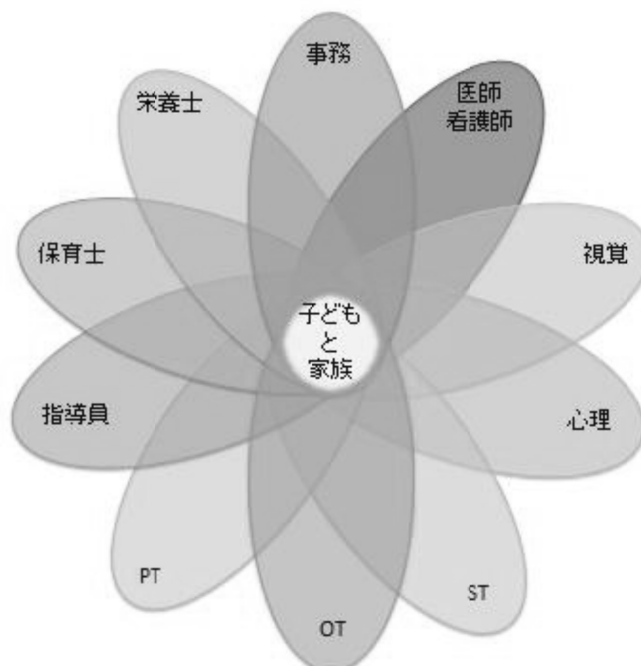
# 支援における3層構造



## みなさんの施設では

- 家族支援は、誰が担当していますか？ 担っていますか？
- 家族支援はどの段階から始まりますか？
- 家族支援として行っていることは、どんなことがありますか？

# うめだ・あけぼの学園で行っている 家族支援に携わる職員



つまり  
全職員

## 家族支援はどの段階から . . .

- ホームページ
- 広報
- 電話をかけてきたとき
- 実際に足を運んだとき



# 乳幼児期の 児童発達支援センターとして 取り組んでいること

## 子育て支援としての療育

- 早期療育ということは、親御さんも親になってまだ日が浅い。一人目の子どもであればなおさら
- 当たり前の子育て経験の不足
- 初めて経験する、子どもを育てるということの大変さ、に加え
- 障害への理解と障害への対応が求められる
- 孤立させない

## 子育て支援としての療育

- 障害児の親のプロトタイプを作るのではない
- 不真面目な親がいてもいいじゃないか
- 親も子育てという作業が遂行できるように。家族という生活が営めるように。

かわいいなあ。良いなあ、子どもって。抱きしめる。あやす。叱る。遊ぶ。一緒にご飯を食べる。一緒にお風呂に入る。写真を撮る。公園に行く。買い物に行く。年中行事。地域活動。

## 子育て支援としての療育

- 保育としての実践
- 子どもを預かるという消極的な意味合いではなく、
- 子どもが育てられる大事な営みとしての保育。子どもにとっての生活の場として、学習の場としての、積極的な意味合いでの保育実践。
- 我が子理解としてのアセスメントの実施、個別支援計画

## 個別療育とグループ療育の経験 ～我が子を知る機会として～

うちの子の新たな面の発見  
うちの子の成長の実感



うちの子の育ちに対する安心感と期待感



うちの子への安心感と期待感



うちの子への愛情

## 個別療育とグループ療育の経験 ～我が子を知る機会として～

- うちの子が大切にされる経験
- うちの子が、多くの他所の人に大切にされ、愛情をかけられる経験
- 社会から目を向けられる（肯定的注目を受ける）経験



## グループや父母会、親の会の活動 ～仲間作りの機会として～

- 同じ境遇にいる仲間の発見  
～ピア、メンター～
- 私の悩みは誰も分かってくれない  
→ 同じ悩みを共有できる
- 友達ができること  
～社会参加の一つ～
  
- 女性のもつ社会性
- 男性のもつ社会性

## 同じ悩みの共有

- 「私の悩みは誰も分かってくれない」  
→ 「私だけの悩みではなかった」
  
- “あるある話”ができる
  - 薬のあるある
  - 医ケアのあるある
  - ダウンのあるある
  - 自閉のあるある
  - ダンナのあるある
  - 親族のあるある

## 友達ができる

- 自分や家族・親類とは異なる 他者
  - 他者は地域・コミュニティ・社会にいる
  - その他者とつながる = 社会とつながる
- 
- 同属としての集まりであるので、広い社会ではないかもしれない。しかし、そこで社会に参加することが実現できることが、第一歩

## 学習の場の提供 ～障害を知る機会として～

- 学習の場
  - あけぼのひろば：年間3回の開催
  - ぷちひろば：よりテーマを絞って、希望性。年間10-15回の開催
  - 保護者へのフィードバックの時間
- その他の行事の開催
  - からしだねフェスティバル、インテ交流会、保護者の集い
- 療育のビデオ説明会 保育の理解としても重要

# これらの取り組みの中で 大切にしていること

- “疑問”が“不満”にならないようにする
- 便利さだけを追求しない
- 出された意見は、クレームではなく、「要望」「希望」「不安」「表明」と受け止める
  - 保護者に意見表明する機会と経験を用意する
  - その後の生活の中で、自分たちで生活を構築していく上での力を蓄えてもらう
- 学園を「卒業」してもらう。子どもだけでなく、保護者にも「卒業」してもらう
  - 有期限であることに対する覚悟を、保護者もスタッフも抱えて生活をする
  - 移行支援の重要性

そのために

- 療育アンケートの実施
  - 我慢することは、子どもの育ちにネガティブな影響がある。文字通り“忌憚のない”意見を
  - 児童発達支援ガイドラインの自己評価
  - 第三者評価も定期的に実施
- 複数の立場の職員が話を聞く体制
  - 相談支援専門員との連携

## 少し技術的なこと

- 要望は聞きすぎない。建設的な話し合いの中で解消する努力を。
- 契約制度の持つ意味。
  - 支援を受ける権利と提供する義務
  - 対価を受ける権利と負担する義務
  - 契約により、権利が生じるが、履行するための義務も両者が負う
  - 庇護する対象ではない、というメッセージ
- 受給者証の価値
- 出席率の確認

カウンセリングで行われる、「枠組み」の役割か

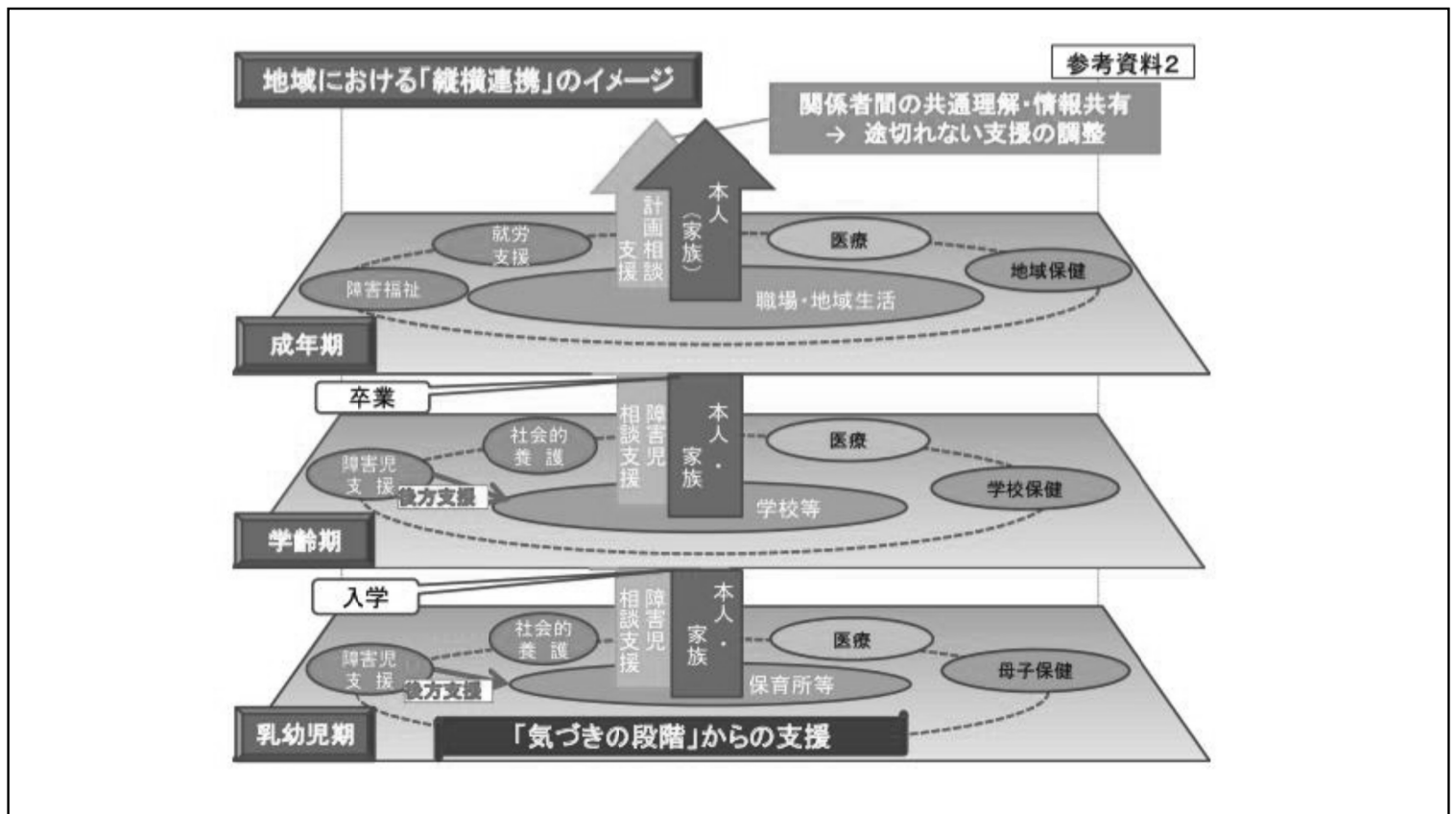
## 取り組みを振り返る

- 我々が行っていること、提供していることが
  - 家族の歩みを妨げていないか
  - 家族の育ちを妨げていないか
  - 家族の在り様をゆがめてしまっていないか
- 
- 我々の行っていることが、家族の負担になるとき

## これらの療育を支えるシステム

- 多様な療育サービスの提供
  - 個別療育の機会の保障：多様な、個別的なニーズに応えるため
  - 希望を選択できる
  - 選択する権利が、自分たちにはある、という経験
- キーパーソン制による安定した窓口の提供
- 複数のスタッフによるチームアプローチ
- 多様なスタッフがいることによる、相談窓口の多様化とチャンス提供
- 学園内の体制としては、チーム支援

## 地域連携について その必要性と行うこと



## 縦横連携のうち 横の連携 = 水平連携

- 同じライフステージにある機関同士の連携
- 情報交換と情報共有と役割分担を
- インクルーシブな社会の実現のために、積極的な水平移行支援と、それを支えるための後方支援
- 一方で、必要な発達支援の機会と場の保障も重要

## 施設の役割は？

- 自分たちの施設、提供サービスはどんな役割を担っているのか
- 地域の中にあって、他の児童福祉施設だけでなく、一般子ども施策との間における役割分担の上での、役割付け・性格付け
- それによってカバーすべき内容が変わってくる
- 一施設だけですべての子どもに、包括的な発達支援を提供することは不可能。地域の中での役割分担が行われることが必要

## 酒井が考えている 障害児通所支援 の 役割

- 子どもが子どもとして **育てられる** ことが障害される
- 子どもが子どもとして **育つ** ことが障害される

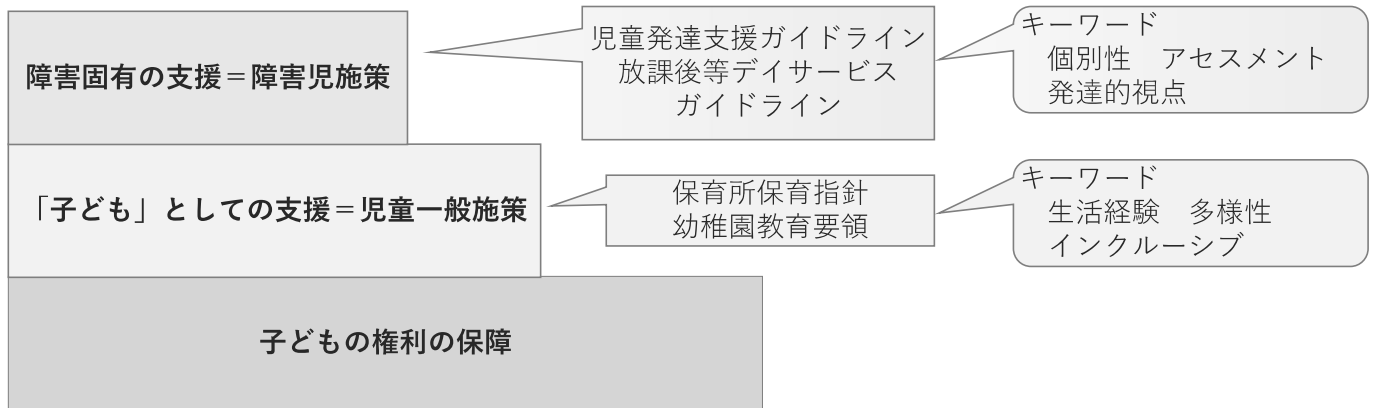
そういった場合に

受けることができる  
提供すべき

支援の総体

# 児童一般施策と障害児施策

上乗せ部分  
基盤部分  
基本理念



新版 障害児通所支援ハンドブック  
P16 障害児支援の考え方 より

## 誰のために環境を用意するのか

- 「支援を必要とする」「発達に遅れや偏りがある」「障害がある」と呼ばれる子どもたちは、一般の環境の中にあっては、他の子どもたちのように学んで、成長していくことが難しい場合がある
- 彼らが学びやすいように、学べるように、アレンジをした環境を用意する



## 発達支援の現場で行うことは

- 地域社会から、子どもを引き離してきている
- 家族から、子どもを引き離してきている
- 子どもの自由な時間から、子どもを引き離してきている
- 一般的社会参加の場から、子どもを引き離してきている
- という自覚と責任を

## 子どもの生活の充実

- 今の生活が充実すること
- これからの生活が充実すること
- 子どもたちの未来の生活が充実すること


## 発達支援の現場で行うことは

- 「いま」「ここ」での生活がうまくいくだけでは意味がない
  - 生活への汎化・広がり視点の欠如
  - 生活への影響視点の欠如
- 「いま」「ここ」で生活することだけでも意味がない
  - 発達視点に基づく意味の把握の欠如
  - インクルーシブな視点の欠如
- 「できない」ことを、ただやみくもに繰り返すだけでも意味がない
  - できない背景を分析する発達視点の欠如

## 縦横連携のうち 横の連携 = 水平連携

- 同じライフステージにある機関同士の連携
- 情報交換と情報共有と役割分担を
- インクルーシブな社会の実現のために、積極的な水平移行支援と、それを支えるための後方支援
- 一方で、必要な発達支援の機会と場の保障も重要

## 連携とは


- 
- 顔が見えること
  - 話ができること
  - 相談ができること
  - 相手がやっていることを知っていること
  - 相手がやっていることを理解していること
  - 相手がやっていることと役割分担をしていること
  - 補い合いができる
  - 建設的な批判をしあえる

## 縦横連携のうち

縦の連携 = 垂直連携

- 異なるライフステージにある機関同士の連携
- 有益な引き継ぎによる情報交換と情報共有
- 「今」困っていることは、「過去」困っていた可能性。「過去」なかったとしたら、それも重要な情報。
- 「今」の育ちと成果を、いかに「未来」に手渡していくか。
- 「自分たちだけ」は単なる自己満足に過ぎない。主人公は「子ども」

## 連携とは

- 
- 顔が見えること
  - 話ができること
  - 相談ができること
  - 相手がやっていることを知っていること
  - 相手がやっていることを理解していること
  - 相手がやっていることと役割分担をしていること
  - 補い合いができる
  - 建設的な批判をしあえる

## 学校との連携

教育 も 変わる



# 学校で作成される計画

## 個別の指導計画

- ・ 幼児児童生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該幼児児童生徒の個別の教育支援計画等を踏まえて、より具体的に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画※

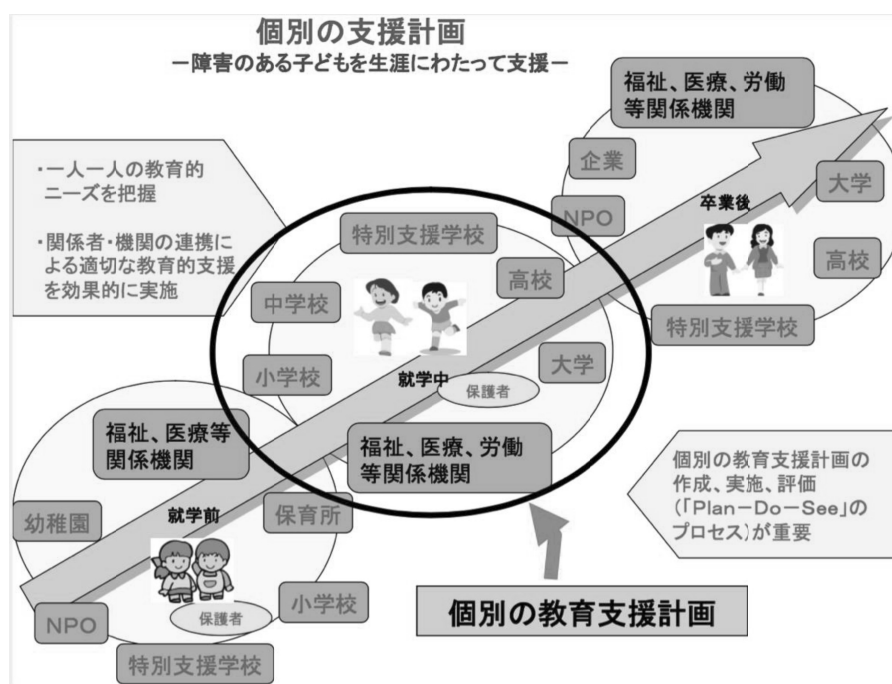
2004：教育支援体制の整備のためのガイドライン

## 個別の教育支援計画

- ・ 障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考え方の下に、福祉、医療、労働等の関係機関との連携を図りつつ、乳幼児期 から学校卒業後までの長期的な視点に立って、一貫して的確な教育的支援を行うために、障害のある幼児児童生徒一人一人について作成した支援計画※

2003：今後の特別支援教育の在り方（最終報告）

# 教育支援計画



## 誰に連絡をすればよいか？

### 幼稚園

- 園長先生
- 副園長先生
- 特別支援教育コーディネーター

### 学校

- 副校長
- 特別支援学校では特別支援教育コーディネーターが窓口になっていることも

### 保育園

- 園長先生

特別支援教育コーディネーター：校内で指名される。養護教諭が担っていることも。

## 学校との連携

- 時間割の把握
- その日の活動の把握
- 学校での生活の様子把握
- 学校での課題の把握
- 学校での指導方針の把握
  
- 連携方法の確認
- 今後連携をするときのタイミング

- 何が行なわれているかを知る
- その日の心身の状態に影響があるかないか
- 学校と同じ生活をしているとは限らない
- 何を課題として焦点化しているか。教育と発達支援では異なる。
- どんな方針で何をしようとしているか。すべて同一にする必要はない。共有はすべき

## 何をする

- 学校見学をする
- 学校公開
- 行事の見学
- 事業所向け説明会
- 放課後等デイサービスで作成した個別支援計画を届ける（保護者の許可をもらって）
- 学校で作成した個別支援計画や教育支援計画を受け取る

## 情報は待っていても 降ってこない

研修や情報は、自分から取りに行く  
探すと、いろんな研修がある  
十分ではないかもしれませんが  
なくはない  
まずは、横の連携



# 発達障害の理解、啓発に役立つ 新刊DVD・書籍のご紹介

## 権利擁護と成年後見

～ネットワークを駆使した地域での取り組み～

【監修】上田 晴男（一般社団法人支援の思想研究会理事長）

形式: DVD 時間: 26 分  
定価: 22,000 円 (税込)  
2021 年 8 月 製作

権利擁護は言葉としてはその必要性は理解できるが、どのように実践されているのかは見えにくい部分があります。近年、成年後見制度利用促進法の下で、全国に権利擁護支援の拠点作りが「中核機関」と「地域連携ネットワーク」という形で進められています。

そうした中、この DVD では様々な実践、地域のそれぞれのニーズに対応している先駆的な取り組み、権利擁護支援が必要な人の状況とその支援ニーズにこたえる取り組み、方法としての成年後見制度の活用、そして共に地域で自分らしく暮らすことを支える支援の取り組み等 5 つの実践を紹介します。

### 【内容】

- Episode: 1 重症心身障害者のちえさんの場合(7 分)
- Episode: 2 認知症高齢者の秋山さんの場合(3 分)
- Episode: 3 知的障害のある A さんの場合 (6 分)
- Episode: 4 知的障害のある杉江さん「きょうだい」の場合(4 分)
- Episode: 5 精神障害のある谷さんの場合(4 分)



## ことばの遅れが気になるなら

接し方で子どもは変わる

【著者名】古荘 純一（青山学院大学 教授・日本発達障害連盟理事）

発売日: 2021 年 08 月 26 日  
定価: 1,540 円 (税込)  
判型: B20 取 頁数: 102 頁

### 【発達障害を疑う前に】

うちの子はことばが遅い……という漠然とした不安に加え、1歳6ヵ月健診、3歳児健診でことばの遅れを指摘され、不安な気持ちに拍車がかかっていないでしょうか。誰にも相談できず、自分のせいではないか、と心を痛めている人も多いようです。

また、「発達障害」への関心が高まるにつれ、ことばの遅れをすぐに発達障害と結びつけるケースも増えています。原因探しに奔走し、発達障害の診断を急ぎ過ぎる傾向もみられます。そもそも子どもの発達過程には個人差があり、ことばの成長にも個人差が大きく影響します。とくに1～3歳ぐらいの子どもは、発達過程での個人差がとて大きく、ことばの遅れだけで発達障害を診断することは困難です。

本書では家庭での働きかけの大切さとともに、「ことばをはぐくむ接し方」や、発語の土台となる「感覚遊び」など具体的な方法を紹介、「ことばの遅れ」をどう受け止め、子どもとどう向き合い、どのように働きかけたらよいかをお伝えします。

### 【本書の内容構成】

プロローグ／自分を責めないで。発想を変えてみよう

- 1／「ことばの遅れ」ってどういうこと？
- 2／接し方を変えてことばを育てよう
- 3／感覚遊びを発語につなげよう
- 4／特性をとらえ子どもの幸福感につなげよう

イラストが多く使われており、とてもわかりやすい一冊です！



# 発達障害白書 2022年版

【編集】（公社）日本発達障害連盟

発売日：2021年09月15日  
定価：3,300円（税込）  
判型：B5 頁数：216頁

特集1では、新型コロナウイルスがもたらした多様な影響を扱う。発達障害児への心理的影響、教育現場や社会の変化、障害者福祉施設の状況、地域福祉の課題等を取り上げる。特集2では、少子化問題を障害者福祉の観点から考察する。

## ◆第1部 特集

### 1 新型コロナと多様な影響

Section1 コロナ禍における教育と社会 Section2 コロナ禍と地域福祉の状況

### 2 少子化とその対応

## ◆第2部 各分野における2020年度の動向

### 第1章 障害概念

### 第2章 医療

### 第3章 子ども・家族支援

### 第4章 教育：特別支援学校の教育

### 第5章 教育：小・中学校等での特別支援教育

### 第6章 社会参加

### 第7章 住まい

### 第8章 地域での暮らし

### 第9章 労働

### 第10章 権利擁護／本人活動

### 第11章 文化・社会活動

### 第12章 国際動向

## ◆第3部 資料

### 1 年表

### 2 統計

### 3 日本発達障害連盟と構成団体名簿

あとがき



## DVD・書籍【ご注文書】お申込 FAX：03-5814-0393 E-mail：book@jldd.jp

下記ご記入の上、FAXにてお送りください。E-メール、ホームページからのご注文も可能です。

DVD・書籍名		販売価格 (税込)	注文数
権利擁護と成年後見		22,000円	
ことばの遅れが気になるなら		1,540円	
発達障害白書 2022年版		3,300円	
お申込み者名	※日本発達障害連盟の賛助会員は5%割引 会員（有・無）	送料及び 振込手数料	※DVDご購入の場合、送料無料 ※振込手数料は注文金額が ¥10,000以上の場合、連盟で負担 させていただきます
お届け先住所	〒 -		
請求書宛名 (お申込み者名と異なる場合、ご記入下さい)		電話	

連盟書籍  
販売サイト



お支払い方法：郵便局の振込用紙を同封いたします。ホームページからお申込みいただけます。  
請求書に記載のゆうちょ銀行、三菱UFJ銀行もご利用いただけます。  
ホームページからのご注文の場合、クレジット決済もご利用いただけます。